



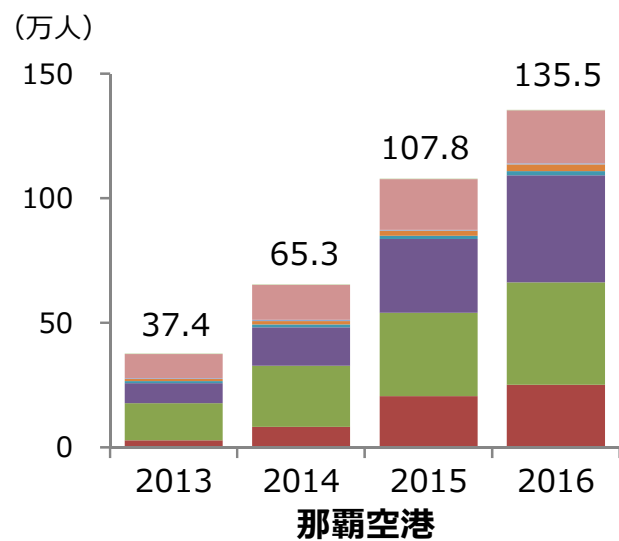
「数字で見る沖縄県与那原町・西原町のインバウンド」



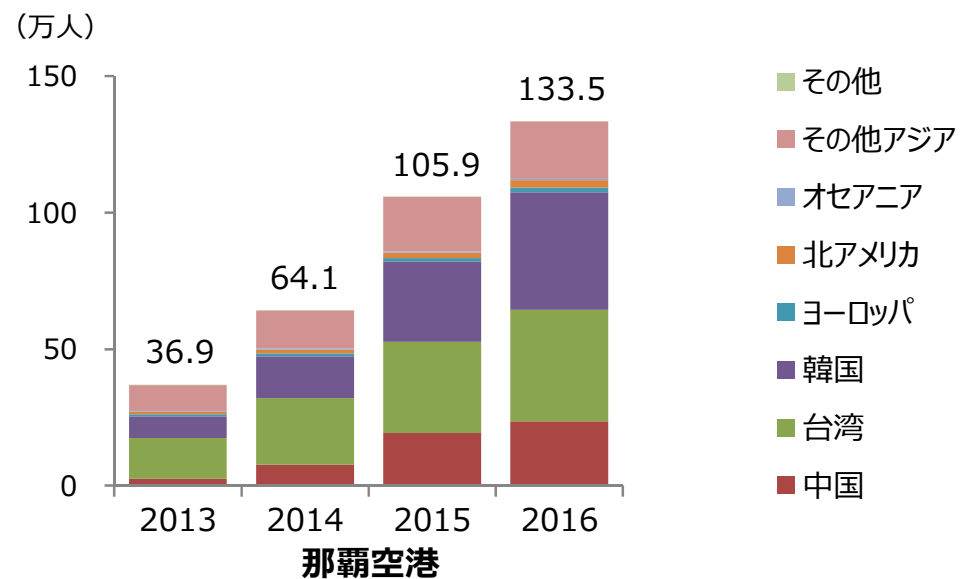
国・地域別訪日旅行者数（空港）

- ◆ 与那原町・西原町につながる玄関口としての空港である那覇空港は、ここ4年間一貫して入国者・出国者ともに増加している。
- ◆ 入出国者の国籍は、韓国、台湾、中国及びその他アジアでほとんどを占めている。

国・地域別入国者数

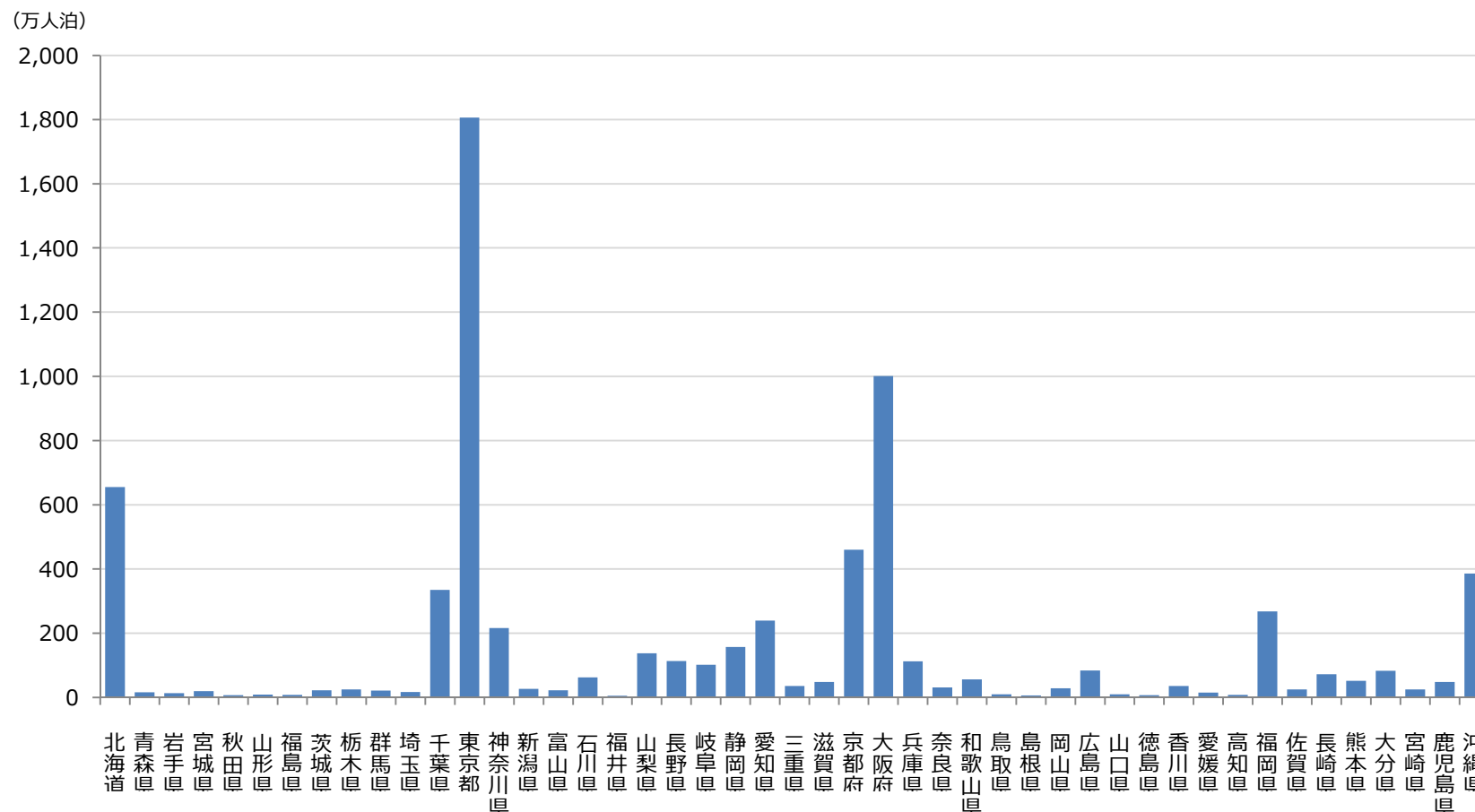


国・地域別出国者数



県別外国人宿泊数

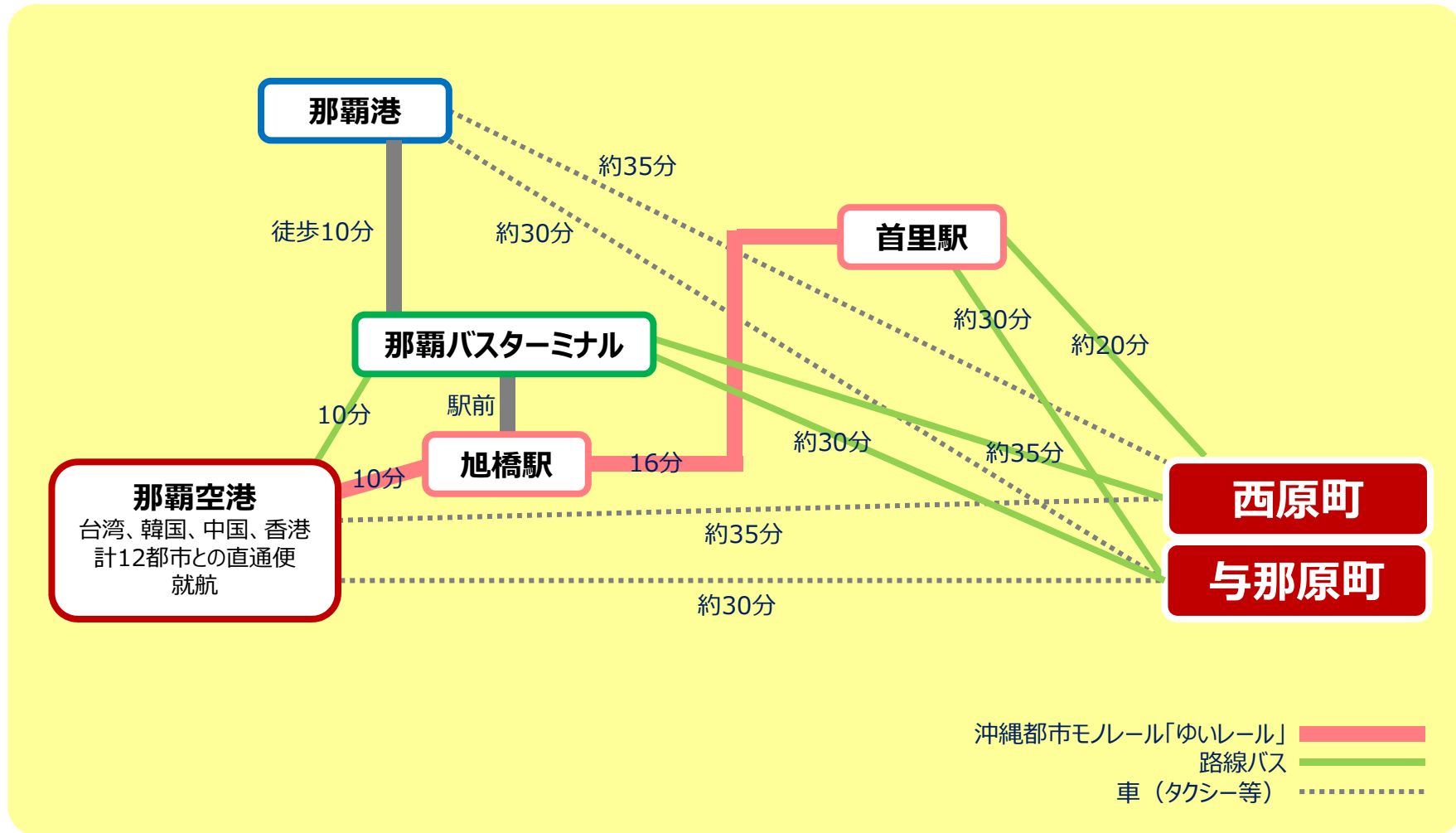
◆ 沖縄県、京都府に次いで全国 5 位。



※2016年 延宿泊者数（1人が2泊した場合2人とカウント）

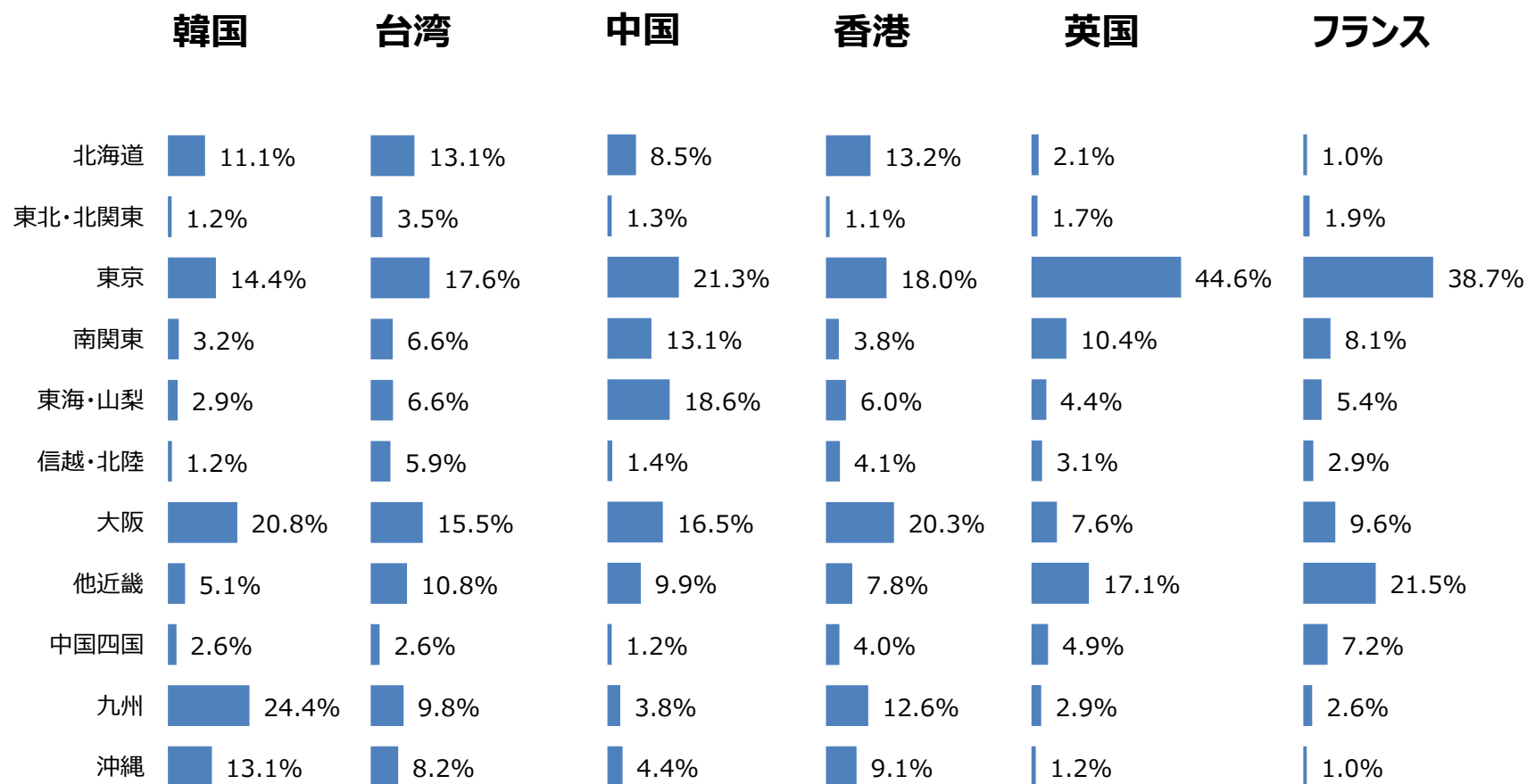
与那原町・西原町の誘客ルート

- ◆ 主なインバウンド客の誘客ルートとしては、与那原町は那覇空港および那覇港よりタクシーで約30分、西原町は那覇空港および那覇港よりタクシーで約35分。ゆいレール利用で与那原町は約40分（那覇空港～那覇バスターミナル10分、那覇バスターミナル～与那原町バス約30分）、西原町は約50分（那覇空港～首里駅約30分、首里駅～西原町バス20分）となる。



主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布

- ◆ 与那原町・西原町に来訪していると考えられる主な国籍の旅行者の宿泊地分布をみると、韓国は西日本に偏在しており、九州が最も多い（近距離性）。台湾と香港は逆に分散傾向が強い（リピーターが多いため）。中国は大都市とその周辺への集中度が高い（初来日者の比率が高いため）。英国とフランスは東京が4割前後を占め、次いで「他近畿」となっている。

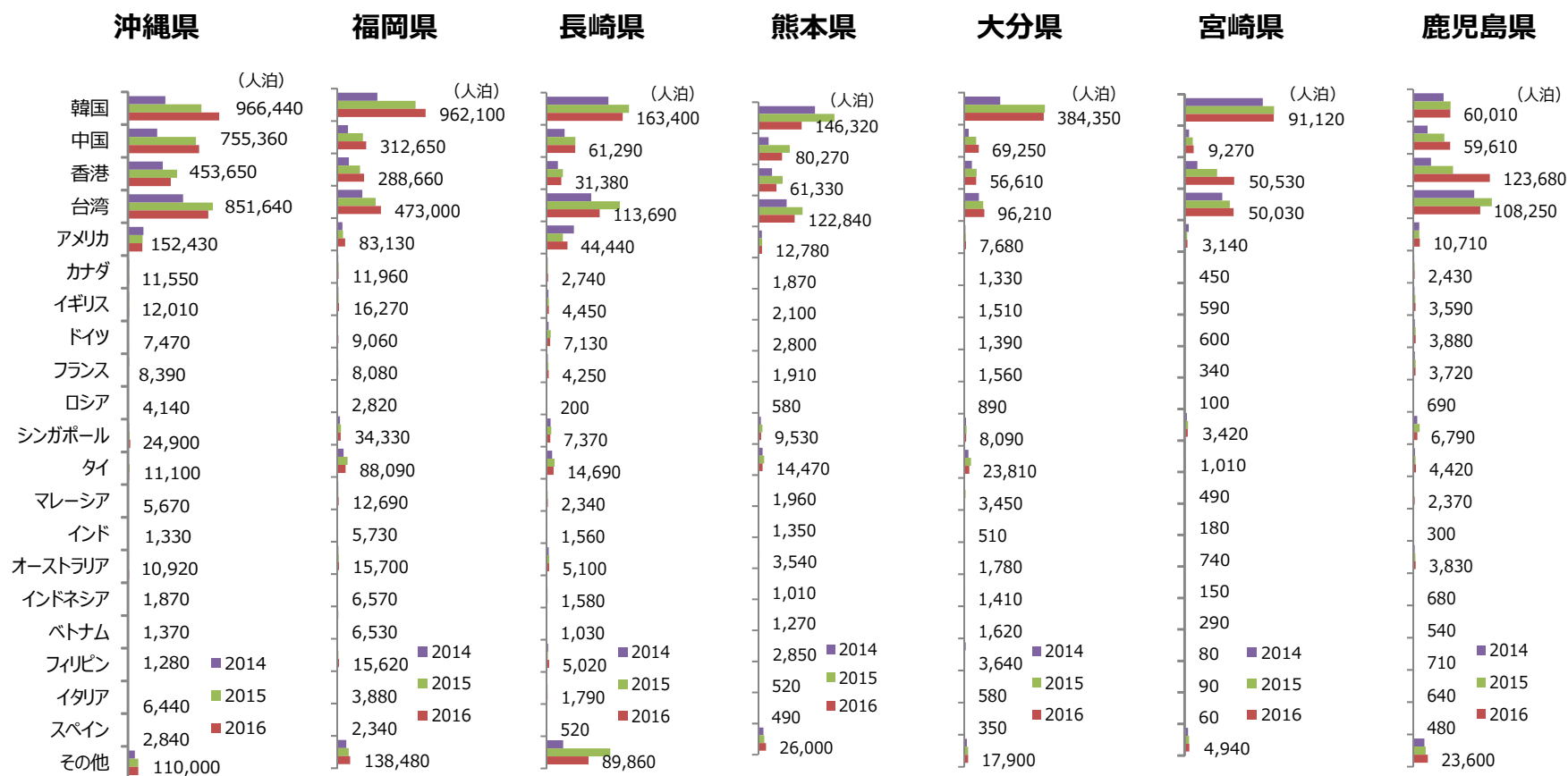


※2015年11月～2016年10月の数値

沖縄県及び近隣県のインバウンド概況（1）

- ◆ 沖縄県内の宿泊施設に2016年に宿泊した外国人の国籍は、韓国が96万6千人泊で最も多く、台湾が85万2千人泊、中国が75万5千人泊、香港が45万4千人泊で続く。
- ◆ 韓国と中国は過去3年増加しているが、台湾と香港は2016年はやや減少した。
- ◆ 近隣県では、鹿児島県は香港、それ以外の県はいずれも韓国が最も多い。

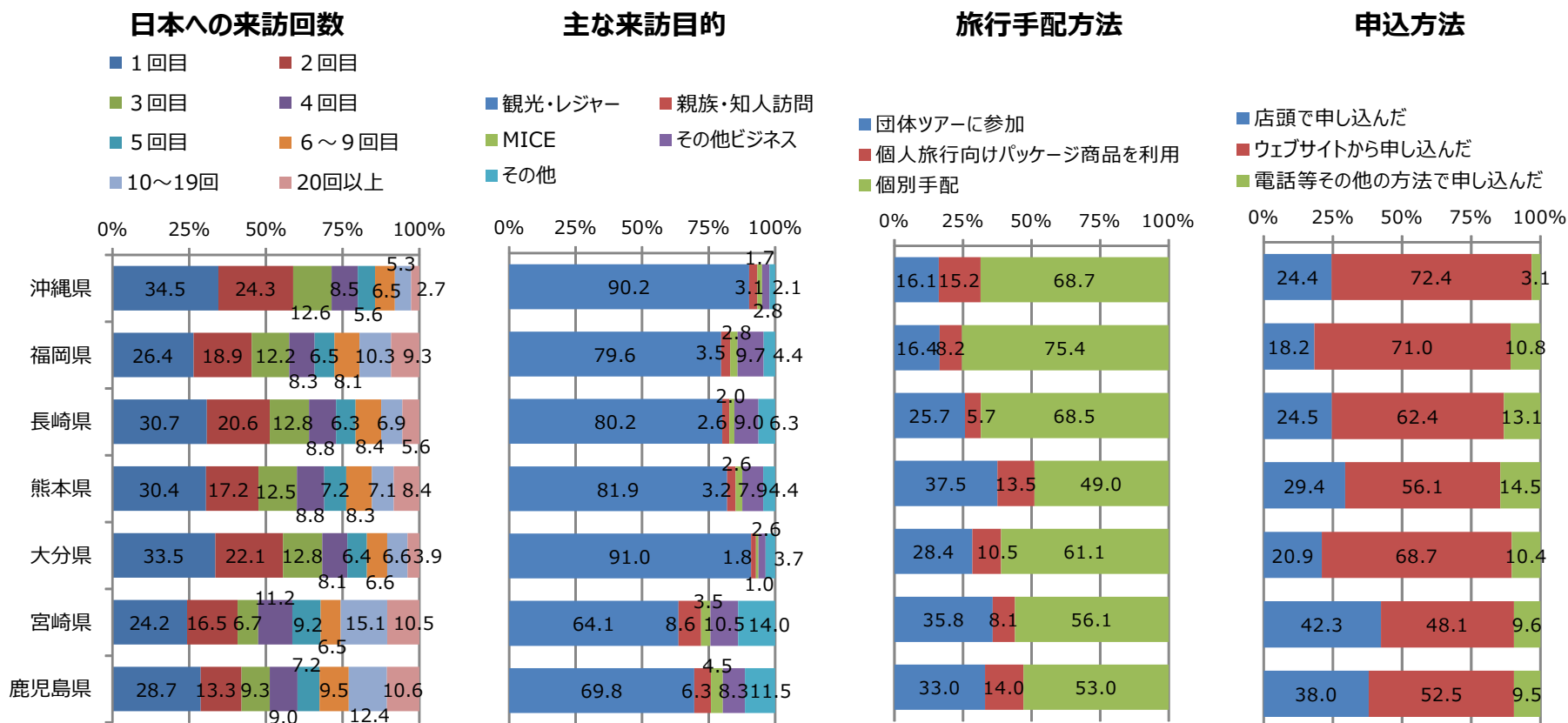
国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数



※数値は2016年
※イタリア、スペインは2015年から追加

沖縄県及び近隣県のインバウンド概況（2）

- ◆ 沖縄県及び近隣県を訪問した外国人の来日回数をみると、沖縄県、大分県、長崎県、熊本県は初来日が3割台と比較的多い。一方、宮崎県と福岡県は2回目以降のリピーターが多くなっている。
- ◆ 主な来訪目的は、全ての県で「観光・レジャー」が最も多いが、沖縄県・大分県で9割以上を占めるのに対し、宮崎県や鹿児島県は6割台と低く、それ以外の目的が比較的多い。
- ◆ 訪日旅行の手配方法は、全ての県で「個別手配」が最も多いが、熊本県、宮崎県、鹿児島県は「団体ツアー」が3割台と比較的多い。
- ◆ 申込方法は、宮崎県と鹿児島県は「ウェブサイト」が比較的高く、「店頭」での申し込みが多くなっている。



※「MICE」は「インセンティブツアー」「展示会・見本市」「国際会議」「企業ミーティング」、「その他ビジネス」は「研修」「その他ビジネス」、「その他」は「観光・レジャー」「親族・知人訪問」及び左記以外の計

各自治体の月別インバウンド概況

- ◆ 外国人宿泊客の月ごとの動向をみると、那覇市は7・8・10月の宿泊者が多く、3月と11月は比較的少なかった。
- ◆ 石垣市は7月が最も多く、6～10月で2千人泊を超えるが、3月は1千人泊を下回り少なかった。
- ◆ 名護市は6月に2万人泊を超え最も多く、7・10月が続き、逆に12月は少なかった。

施設所在地別外国人延べ宿泊者数（2016年）

